

中学校3学年国語科学習指導案

日 時	令和8年7月14日（火） 5校時（13：30～14：20）、6校時（14：30～15：20）		
対 象	花巻市立宮野目中学校第3学年A組（24名）、B組（25名）		
授 業 者	花巻市立宮野目中学校 校長 渡邊康二		
単 元 名	報道文との関わり方		
学 習 材	報道文を比較して読もう（「国語3」光村図書）		
単 元 の 目 標	知識及び技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し、使うことができる。【情報（2）イ】	
	思考・判断・表現等	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【C読む（1）イ】	
	学びに向かう力、人間性等	積極的に情報を読み取り、実生活との関連を考えようとする。	
単元の評価規準	知識・技能	発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。	
	思考・判断・表現	事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えることができる。	
	主体的に学習に取り組む態度	・複数の資料を関連付けながら、必要な情報を積極的に読み取ろうとしている。【粘り強さ】 ・記事を比較しながら自分の考えをまとめようとしている。【学習の自己調整】	
教材について	本教材は、奄美・沖縄の世界遺産登録から1年後の状況を報じた2つの新聞記事を読み比べるものである。（記事A「中国新聞 SELECT」（2022.7.27）、記事B「読売新聞」（2022.8.3））報道文は実際にあった出来事や事実を伝えるものであり、書き手の意見・主張は直接書かれていないことが多い。しかし実際は、事実を取捨選択したり、表現を選択したりしながら書かれているため、書き手のものの見方や考え方が間接的に反映されていることがある。本教材も、「報じられている事実」と「記者の立場が読み取れる記述」に即して書き手のものの見方が含まれた表現を整理することで、報道の背景にある「記者の立場」を捉えることができる教材となっている。 また、本単元においては、生徒に身近な話題を取り上げた複数の報道記事（岩手日報、読売新聞、東京新聞）を示し、生徒に「記者の立場」を捉えさせ文章を批判的に読む力を養いたい。		
指導と評価の計画			
階 段	時	主な学習内容	評価方法
1	1	○ 佐々木朗希選手の記事の比較 ・ 読み手の印象にはどのような違いがあるか ・ なぜ、記事によって違いがあるのだろうか 報道文によって、書きぶりに違いがあるのはなぜか。 ○ 教材文を比較する ※ どちらも「奄美・沖縄世界遺産登録1年後の状況」の記事 ※ どちらも「観光と自然保護の両立」を主張している ○ どのような違いがあるか確認する ※ グループで違いを見つけさせる ※ 教科書 p82～83 を参考にさせる 報道文は、出来事や事実を伝える文章ではあるが、書き手の立場によって、事実を取捨選択したり表現を選択したりしながら書くことで、書き手のものの見方や考え方を間接的に表現することがある。	【主体的に学習に取り組む態度：観察】 ・ 2つの記事の書き手の立場の違いを捉えようと、記事を何度も読んだり、記事について話し合ったりしている
		○ 前時の学習内容を想起する 私たちは、報道文を読んで、自分の考えを持つためには、どのようなことに気を付ければ良いだろうか。 ○ 新聞報道の記事を比較して、自分の考えを持つ ※ 「+日報」「検索サイト」「紙媒体」での記事の比較 ※ 生徒に身近な事例についての記事内容であり、「（記事に書かれた内容について）自分はどうか考えるか」、自分の考えをまとめさせる ※ まとめ方は、「検索サイトのコメント風」にまとめさせ、「より多くの共感が得られるような書き方」を意識させる ※ 自分の考えをまとめるために、個人で考えても、グループで話し合っても良いこととする ○ 報道文を読んで自分の考えを持つときの留意点を考える ※ 自分で考えてまとめるだけでなく、周囲と相談したり、参観者にインタビューしたりしても良いこととする 報道されている内容を一面的に捉えるのではなく、他の報道と比べたり、報道された内容を周囲と話し合ったりしながら自分の考えを持つ必要がある。	